



天台宗「シリーズ年中行事」②

お正月のしおり



お正月のお供え (地方によって風習の違いがあります)

来る年の歳神様を迎えるに当たり、年末には注連飾りや門松を飾りますが、あわただしく飾る大晦日の「一夜飾り」は避けましょう。お供えの鏡餅は、台の上に奉書紙などを敷いて、その上に置きます。鏡餅には橙(家系の繁栄を願う)・裏白(長命を願う)と同時に、後ろ暗さのない一生を願う)・干し柿(嬉しいことがやって来る「嘉来」という意味から、幸福を取り込む)などを飾ります。

お正月にはお節料理をいただきますが、これは本来「お節供」にいただくもので、神様に供える料理のことをいいます。お雑煮は歳神様にお供えしたお餅と、他の収穫物をお下がりとしていただき、雑多に煮たものです。何れにしても、神様やご先祖様と一緒に食事をするという意味がありますから、できれば箸の両方が細くなっている天地箸(祝い箸)を用いたものです。また、お屠蘇には悪いものを退治するという意味があり、無病息災を祈っていただきます。何気ない一つ一つに先人の知恵が隠されていることに私たちは心をくばり、それを次世代に伝えていくことが大事です。



【清らかな一年を願って】

① すず払い(大掃除)

年末には家の掃除とともに、仏壇や神棚の一年の汚れを取り除き、清らかな心で新年を迎える準備をしましょう。

② 年越し・大晦日・除夜

一年の最後の日を大晦日、その晩を除夜といいます。江戸時代までは、日没を一日の区切りとしていましたので、日没後は新年と考えられていました。多くの寺院では新年を迎える願いをこめて除夜の鐘をつきならします。鐘の音に耳を傾け、家族そろって心静かに新年を迎えましょう。

③ 元旦・元日

一年の最初の日を元日、元日の朝のことを特に元旦といいます。「旦」には朝・夜明けの意味があります。年頭のめでたさとともに、あらためて一年の誓いをたてましょう。

④ 初詣

各寺院ではさまざまな新年の法要・御祈祷が奉修されています。菩提寺に年頭の参拝をしましょう。

⑤ 七草粥

春の七草や餅などを具材とする粥で、その一年の無病息災を願って1月7日に食べられています。正月の祝膳や祝酒で弱った胃を休めるためとも言われます。

⑥ 小正月

旧暦で元日や三ヶ日が大正月というのに対して、1月15日、あるいは14日から16日までを小正月といいます。元旦から小正月までの期間の行事や習慣は地方によってさまざまです。地域に伝わる豊かな伝統を大切にしましょう。

修正会について——新年を迎えるにあたって——

修正会は、正月に修する法会の意味で、旧年の罪過を懺悔し、新年の平安、五穀豊穰、万民豊樂を祈る

法要です。懺悔するのは、私たちそれぞれの一年の生活を見つめ直し、新年を新たな気持ちで迎えるためです。そして、この懺悔の功德によつてすべての人々が、大自然の恩恵をいただきながら、健康で心豊かな一年となるように祈念します。

比叡山延暦寺では大晦日から三箇日にかけて、修正会が営まれ、新たな気持ちで新年の正月を迎えようとする大勢の参拝者で賑わいます。

大晦日の夜、延暦寺根本中堂で奉修される修正会では、読経のなか、心静かに一年を反省するとともに、無事に過ごせたことに感謝の気持ち捧げます。続いて、根本中堂前広場では追儺式が行われ、貪(むさぼり)・瞋(いかり)・癡(おろかさ)という、人の心に潜む三つの鬼(三毒)が登場します。これらの鬼たちは欲望に揺れ動く人の心に見立てた広場を所狭しと暴れまわります。しかし、錫杖師の法力によつて調伏、改心させられます。

そして、大講堂前の鐘楼では除夜の鐘がつかれ、山内に響く鐘の音とともに新年を迎えます。除夜とは「夜を除く」と書きますが、夜とは闇のことであり、煩惱のこともあります。百八つの鐘をつくのは、私たちの持つ百八煩惱の数を表し、一年間に犯した過ちを反省し、心の垢を洗い落とすためです。この懺悔の心と鐘の音によつて、むさぼりや怒りの炎を消し、身も心も清らかになって新年を迎えます。

私たちもまた、年が明け、お正月(主に元旦から七日間)には寺院(菩提寺)や神社に初詣して、新年一年間の無事平安を祈願しましょう。そして、家のお仏壇へのお参りや、お墓参りをしてご先祖様へ新年のご挨拶をするのも大切なことです。

迷いの世界の中で日々過ごしている私たちは、気付かぬうちに多くの過ちや罪を犯しています。しかしながら、あらゆる罪は霜や露のように、悟りの智慧によつて消し去ることができます。

今こそ仏の世界に心を運び、眼耳鼻舌身意の六根で犯した罪をすべて懺悔し、発心するようお願いをこめましょう。新しい年を迎える時こそ、そのような機会としたいものです。

